



No. 32

2025年12月29日 発行

JR東労組 新幹線協議会

発行責任者 伊藤 千恵 蔵

## 幹本申第5号「JR東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について」に関する解明入れ（その1）①

1. 「JR東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について」を実施する目的を明らかにすること

### 【回答】

経営環境が大きく変容し厳しさを増す中、JR東日本グループは新たな時代に向けた発展のため、モビリティと生活ソリューションの二軸で新たなマーケットを創造し、いかなる経営環境の中でも持続的に成長する強靭な経営体質を「勇翔 2034」で実現していかなければならない。

「勇翔 2034」実現に向けて、これまで取り組んできた仕事や組織の見直しを基盤として、社員がお客さまに近いところで自らの創意を發揮し、社会課題の解決への貢献や感動の創造に向けて果敢にチャレンジできるよう「融合と連携」をさらに加速するために、新幹線統括本部の組織と業務の再編を行うものである。

《組合》融合と連携をさらに加速させるとあるが具体的な内容は何か。

《会社》各支社では統括センター化があり、駅業務、乗務員の業務、企画業務など個別運営してきたものを横断的に担う社員が増えている。新幹線統括本部としても運輸区や車両センターと地場支社と連携して様々な取り組みを展開している。新たなものを打ち上げるというよりは、新幹線でも組織の見直しを図ることでより深度化していく。

《組合》「勇翔 2034 の実現に向けてこれまで取り組んできた仕事や組織の見直しを基盤として」の部分を具体的に説明して欲しい。

《会社》鉄道会社として当社発足よりも前からあるが、安全を第一に事業運営をしていくことは変わらないし、安全だけでなく地域に根ざした経営をこの間行ってきたところであり、考え方は変わらない。地方との関係性も非常に大事であると考えている。

《組合》社員と会社の新たなエンゲージメントの創出と、社員と家族の幸福の実現も含めて実現をしていくということで良いか。

《会社》それは非常に大事であるし、統括本部としても色々な面でサポートしてきたところである。当然にも社員だけでなく、ご家族含めて幸福の実現をしていくことは非常に大切であるので認識の通りである。

《組合》社員の運用についてどう変化していくのか。

《会社》各系統に特化した知識、分野的なものがあり、そういった基本的なものは維持しつつも他の仕事と融合していくことで、例えば異常時対応の面でもより迅速に対応が出来るなど、安全・安定輸送が強固になることも目指していかなければならない。本人の希望や置かれている状況、会社として期待することや業務上の必要性など、総合的に勘案して判断していくが上司とのコミュニケーションは非常に大事であるし、考え方方が変わるものでない。

《組合》基本的にライフサイクル的なものは大きな変更はまずない。ただ、活躍するフィールド自体が広がる中で会社の社員に対する期待、このフィールドで活躍したいなどの本人希望を踏まえて、今後のライフサイクルが変化していくという認識でよいか。

《会社》ライフサイクルが確立的に何かというのは難しいが、活躍のフィールドが広がること自体は間違いないので、その部分では色々と変化をしていくと思う。必要な教育・訓練は行っていく。